

個別事業の進捗管理表に対する委員からの意見等への対応（案）一覧表

No.	進捗管理表のページ	主要施策No.	事業No.	取組名	区分	意見・指摘事項等	対応方針	担当課
1	1ページ	1-1	1	妊婦一般健康診査	評価・分析等	○平成31年度における目標を「妊娠15週までの届出率100%」にすることは必要と思うが、現状(値)の98.5%を除く届け出をしていない1.5%の方には、とても難しい背景があると思う。 ○平成27年度の達成状況で届出率100%に至らなかった場合には、その理由や届出状況を分析し、評価してはどうか。	○ご指摘のとおり、目標達成は困難ではありますが、妊娠中に必要な健診を受診し、安心して出産を迎えられるよう妊娠15週までに届け出させていただくことが望ましいため、原案のままとします。 ○妊娠16週以降の届出者については、その理由等を分析・評価するとともに適切な対応・支援を行います。	健康づくり推進課
2	2ページ	1-1	9	休日・夜間診療所	平成31年度における目標	○目標を「利用患者数」にしているが、休日・夜間のセーフティネットとして市民が安心できる部分と考えられるため、利用患者数を明記しなくてもよいと思う。	○ご意見を踏まえ、年間を通じて病院等の診療時間外における第一次救急医療体制の確保に努めるという趣旨から、平成31年度における目標を「開設日数」に修正します。	健康づくり推進課
3	2ページ	1-2	2	妊産婦・子ども医療費助成事業	平成31年度における目標	○妊産婦・子ども医療費助成事業、児童手当給付事業、児童扶養手当給付事業の目標は、「必要な支援や助成が受けられていないと感じる割合 6%」としているが、制度の周知を図る点では、就学援助費(特別支援教育就学奨励金)、就学援助費(要保護及び準要保護児童生徒援助費)、通学援助費と同様であると思う。 ○目標を「周知徹底を図り、申請もれがない状態」にしてはどうか。	○ご意見を踏まえ、子ども医療費助成事業及び児童手当給付事業は、平成31年度における目標を「申請漏れ件数 0件」に修正します。 ○児童扶養手当給付事業については、住民異動リストで対象者を特定することができず、申請漏れの確認ができないため、平成31年度における目標を「制度の周知回数 2回」に修正し、申請漏れがないよう努めます。	こども課
		1-2	3	児童手当給付事業				
		1-2	4	児童扶養手当給付事業				
4	3ページ	1-2	7	就学援助費(特別支援教育就学奨励金)	平成31年度における目標	○妊産婦・子ども医療費助成事業、児童手当給付事業、児童扶養手当給付事業の目標は、「必要な支援や助成が受けられていないと感じる割合 6%」としているが、制度の周知を図る点では、就学援助費(特別支援教育就学奨励金)、就学援助費(要保護及び準要保護児童生徒援助費)、通学援助費と同様であると思う。 ○目標を「周知徹底を図り、申請もれがない状態」にしてはどうか。	○当事業は、申請漏れを判断・確認することが困難であるため、平成31年度における目標は原案のままとします。	学校教育課
		1-2	8	就学援助費(要保護及び準要保護児童生徒援助費)				
		1-2	9	通学援助費				
5	3ページ	1-2	10	子育てジョイカード事業	目標達成に向けた実施内容	○当事業は、少子化対策として、民間企業の協力が必要である。協賛企業はスーパーなどの業種のみでなく、建築業などの業種にも拡大してほしい。	○現在、協賛店舗として435店舗の登録があり、そのうち建築業を含む住まいに関する店舗が21店舗となっています。 ○目標に向けた実施内容を「市内のトキッ子くらぶサポート店のうち、ジョイカード未協賛企業に対し、募集チラシを送付する。・広報上越に協賛店の募集記事を掲載するほか、上越商工会議所及び商工会を通じて募集チラシを配布する。」に修正します。	こども課
6	4ページ	1-3	3	通常保育事業(3歳未満児)	平成31年度における目標	○目標を「年間を通じて保育が必要な子どもに対して、保育が提供されている状態。」にしてはどうか。途中入園に対しても善処していることがわかると思う。 ○評価方法を「待機児童数及び途中入園希望者に対する状況」にしてはどうか。	○ご意見のとおり、平成31年度における目標を「年間を通じて保育が必要な子どもに対して、保育が提供されている状態」に修正します。 ○目標の評価方法にある「待機児童数」には「年度途中に入園を希望する児童」も含まれることから原案のままとします。なお、希望する園に入ることができないために入園を辞退した場合は、待機児童数には含めません。	こども課
7	5ページ	1-3	6	一時預かり事業(保育園)	○平成31年度における目標 ○目標達成に向けた実施内容	○親支援の意味合いから目標を「一時預かりが必要な子どもに対して、保育が提供され、親子のより良い育ちを応援できている状態。」としてはどうか。 ○実施内容の「家庭において保育を受けることが一時的に困難になった乳幼児について」の表現があまり適切ではないと思う。「 <u>保護者の育児疲れ解消や急病時等の緊急又は一時的な保育需要に対応することで、保護者が安心して子どもを預けられる環境を整備し、親子のより良い育ちを応援する。</u> 」にしてはどうか。	○「親子のより良い育ちを応援できている状態」とした場合、評価が難しい目標であることから原案のままとします。 ○平成27年度の実施内容については、人材確保が必要であることから、具体的な内容として「一時預かりが必要な子どもに対して保育が提供されるよう職員を配置する。・保育士資格取得者(潜在保育士)を対象とした再就職セミナーを実施し、保育士資格者を確保する。」に変更します。	こども課
8	5ページ	1-3	6	一時預かり事業(幼稚園・認定こども園)	平成31年度における目標	○目標の評価方法として、「私立幼稚園が、一時預かり制度(幼稚園型)により、保護者が常に安心して子どもたちを預ける環境が整っていること」とありますが、現行の一時預かり事業との違いを教えてください。	○現在、上越市内の私立幼稚園9園において、各園独自に通常の教育時間前後や長期休業期間中等に、在園児等を対象とした預かり保育が行われています。 ○一時預かり事業(幼稚園型)は、地域子ども・子育て支援事業として位置づけられ、子育て家庭を対象とする事業として、市が地域の実情に応じて実施します。現行の私立幼稚園での預かり保育を基本とし、一定の要件を満たせば、市の補助事業として実施します。	教育総務課

No.	進捗管理表のページ	主要施策No.	事業No.	取組名	区分	意見・指摘事項等	対応方針	担当課
9	5ページ	1-3	8	ファミリーヘルプ保育園	平成31年度における目標	○親支援の意味合いから目標を「ファミリーヘルプによる保育が必要な子どもに対して、保育が提供され、 <u>親子のより良い育ちを応援できている状態。</u> 」にしてはどうか。	○「親子のより良い育ちを応援できている状態」とした場合、評価が難しい目標であることから原案のままとします。	こども課
10	7ページ	1-4	11	子育て関連施設における相談の実施	平成31年度における目標	○目標を「子育てに不安感や負担感を感じる人の割合」を減らすをしているが、程度だと思ふ。「不安感や負担感を強く感じるという人の割合」を調査し、その割合を減らすことを目標にしてはどうか。 ○相談できる人がいる割合としてはどうか。 ○事業への満足度も目標の評価方法に挙げてはどうか。(開催の度に調査しなくても良い)	○子育てに不安感や負担感を感じながらも、子育てしている保護者もいること、また、子育ての不安や悩みを相談する相手は専門職員に限らず知人や家族なども考えられることから、平成31年度における目標は「気軽に相談できる人や相談できる場所がないとした人の割合」に修正します。 ○計画最終年度である平成31年度には、計画全体の評価として再度、市民ニーズ調査を実施することとしており、その際には当会議委員の皆さんから調査項目等についてご意見を頂戴する予定です。	こども課
					○「子育てに不安感や負担感を感じる人の割合」を「子育てに不安感や負担感を感じた際に、専門職員に相談することができた人の割合」にしてはどうか。			
					○評価方法を子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の「子育てに不安や負担感を感じる人の割合」としているが、同調査の問7「気軽に相談できる人はいますか」を加えるのはどうか。 ○今回のニーズ調査では、問7は、問6「日頃、宛名のお子さんを見てもらえる親戚・知人はいますか？」で、「誰もいない」と解答した人だけが答える質問となっていたが、もっと対象を広げた質問に改善したほうが良いと思う。			
11	7ページ	1-4	12	子育てひろば	平成31年度における目標	○目標を「子育てに不安感や負担感を感じる人の割合」を減らすをしているが、程度だと思ふ。「不安感や負担感を強く感じるという人の割合」を調査し、その割合を減らすことを目標にしてはどうか。 ○相談できる人がいる割合としてはどうか。 ○事業への満足度も目標の評価方法に挙げてはどうか。(開催の度に調査しなくても良い)	○国の要綱では、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援するため、「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」「子育て等に関する相談、援助の実施」「地域の子育て関連情報の提供」「子育て及び子育て支援に関する講習等の実施」など様々な事業が位置づけられています。 ○このことから、子育てひろばの事業全体を評価対象とし、平成31年度における目標を「事業への満足度」に修正します。 ○計画最終年度である平成31年度には、計画全体の評価として再度、市民ニーズ調査を実施することとしており、その際には当会議委員の皆さんから調査項目等についてご意見を頂戴する予定です。	こども課
					○「子育てに不安感や負担感を感じる人の割合」を「子育てに不安感や負担感を感じた際に、専門職員に相談することができた人の割合」にしてはどうか。			
					○評価方法を子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の「子育てに不安や負担感を感じる人の割合」としているが、同調査の問7「気軽に相談できる人はいますか」を加えるのはどうか。 ○今回のニーズ調査では、問7は、問6「日頃、宛名のお子さんを見てもらえる親戚・知人はいますか？」で、「誰もいない」と解答した人だけが答える質問となっていたが、もっと対象を広げた質問に改善したほうが良いと思う。			
					目標達成に向けた実施内容	○子どもの育ち支援の事業には、子育ての悩みを相談する窓口が多くあります。その一つに「子育てひろば」「こどもセンター」もありますが、主な目的は親子のふれあい、親子同士の交流にあるようです。 ○その意味からすれば、認知度、利用人数が評価の対象となります。子育てに関する知識を得る場であることから利用者が増えるよう周知をお願いしたい。	○「こどもセンター」や「子育てひろば」では、親子の遊ぶの場や保護者同士の交流の場、子育てについての相談、情報の提供、講座等を実施しており、年間延べ20万人の利用があります。 ○引き続き、多くの方からご利用いただくため、子育て支援サイト「上越市子育て応援ステーション」やチラシ等での周知を図ります。	
12	8ページ	1-4	13	こどもセンター	平成31年度における目標	○目標を「子育てに不安感や負担感を感じる人の割合」を減らすをしているが、程度だと思ふ。「不安感や負担感を強く感じるという人の割合」を調査し、その割合を減らすことを目標にしてはどうか。 ○相談できる人がいる割合としてはどうか。 ○事業への満足度も目標の評価方法に挙げてはどうか。(開催の度に調査しなくても良い)	○国の要綱では、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援するため、「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」「子育て等に関する相談、援助の実施」「地域の子育て関連情報の提供」「子育て及び子育て支援に関する講習等の実施」など様々な事業が位置づけられています。 ○このことから、こどもセンターの事業全体を評価対象とし、平成31年度における目標を「事業への満足度」に修正します。 ○なお、計画最終年度である平成31年度には、計画全体の評価として再度、市民ニーズ調査を実施することとしており、その際には当会議委員の皆さんから調査項目等についてご意見を頂戴する予定です。	こども課
					○評価方法を子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の「子育てに不安や負担感を感じる人の割合」としているが、同調査の問7「気軽に相談できる人はいますか」を加えるのはどうか。 ○今回のニーズ調査では、問7は、問6「日頃、宛名のお子さんを見てもらえる親戚・知人はいますか？」で、「誰もいない」と解答した人だけが答える質問となっていたが、もっと対象を広げた質問に改善したほうが良いと思う。			
					○子どもの育ち支援の事業には、子育ての悩みを相談する窓口が多くあります。その一つに「子育てひろば」や「こどもセンター」もありますが、主な目的は親子のふれあい、親子同士の交流にあるようです。 ○その意味からすれば、認知度、利用人数が評価の対象となります。子育てに関する知識を得る場であることから利用者が増えるよう周知をお願いしたい。	○「こどもセンター」や「子育てひろば」では、親子同士の交流の場の提供や子育て支援情報の提供、利用で相談、子育てに関する講座の開催を行っており、平成25年度は延べ20万人以上の利用がありました。 ○引き続き、多くの方からご利用いただくため、子育て支援サイト「上越市子育て応援ステーション」やチラシ等での周知を図ります。		

No.	進捗管理表のページ	主要施策No.	事業No.	取組名	区分	意見・指摘事項等	対応方針	担当課
13	11ページ	2-2	7	不登校児童生徒適応指導教室	平成31年度における目標	○学校に行けない子どもが増えているため、適応指導教室に通う子どもが多くなっている。子どもの人数が多くなると、十分な指導ができないことから、指導員の数を増やすなど事業内容の充実をお願いしたい。	○適応指導教室に通室する児童生徒の増加に伴い、教室数を増やす方向で検討しています。	学校教育課
14	15ページ	3-4	2	安全メール	目標達成に向けた実施内容	○目標達成に向けた実施内容に「住民」を加えてはどうか。適時的確な情報発信に努め、携帯電話会社や児童・生徒の保護者及び住民と連携し、受信者拡大を図る。	○安全メールは、児童・生徒に限らず、市民の安全安心の確保を目的としていることから、目標達成に向けた実施内容に「及び市民」を追記します。	防災危機管理課
15	—	—	—	—	評価方法	<p>【個別事業の評価指標】 ≪指標の達成度≫ ◎達成(100%)、○概ね達成(80%以上～100%未満)、 △やや遅れている(60%以上～80%未満)、▲遅れている(60%もしくは50%未満) ・上記の表現では、「達成できたものはできた」ということがわかる。また、「遅れている」という表現は、ダメとは言われていない。遅れている理由を探求し、改善をはかれば良い。評価しているものにとっても、評価される側にとっても、次への課題や希望を見出せる評価のように思います。 ・子ども未来応援プランの評価指標では、「下回っている」という表現を用いていたが、差のみを意識してしまうと思う。行政評価について詳しくないが、「できたか」、「できなかったか」、そして、できなかったものは、「切る」という視点が必要ということであれば、子ども未来応援プランの評価指標がよいと思います。</p> <p>【基本目標及び主要施策の評価指標】 (例「1. 生みやすく、育てやすいまちづくり」の「1 母子保健の充実」) s 年度計画を大幅に上回る、a 年度計画を上回る、b 年度計画を概ね実施 c 年度計画を十分に実施せず、d 年度計画を大幅に下回る ・個々の事業のみでなく、総合的に主要施策(例:母子保健の充実)に関する達成度が明確になり、目標を立てやすいのではないかとと思う。 ・Sがあるということは励みではないでしょうか。 ・全体の達成度であるため、「上回る」「下回る」の表現でも良いと思う。</p> <p>【子ども・子育て支援事業計画の評価の全体像の示し方について】 ・今後、子ども・子育て支援事業計画を評価という段階になった際に、事業毎の評価資料の前に全体評価を示した上で、個々の事業の評価を説明すると分かりやすいと思う。</p>	<p>○個別事業の各年度の評価は、平成31年度における目標に対し、どのようにアプローチしたか、また、その結果、目標に対しどこまで到達できているかを評価することにより、到達状況を見ながら、そのアプローチが適切に行われているか事業の質を評価することとしています。</p> <p>○なお、評価方法については、ご意見を踏まえながら子ども・子育て会議において、検討していきたいと考えています。</p>	こども課